

5. 講義概要

一般教育科目

倫理学 2単位

倫理とは人間が共同生活を営んでいくうえでの決まり、約束ごと、良識…習慣などのことである。これまでいつの時代にも倫理をめぐる様々な事件が起こり、論争が続けられてきた。近年も政治・経済・科学・家庭などの諸分野で我々の倫理的見識が問い直されるような激論がたたかわされている。また倫理はひとりひとりの生き方にも関わってくる。個人の人生においては社会と激しく対立し、孤立して生きることもあろうし、共同体に抱かれ温々と生きる場面もあろう。

倫理学はただ決まりについて考えるだけの学問ではない。むしろ人間という存在について色々な観点から広く考察する学問であろう。この講義は倫理学の基本的知識と思考方法を身につけることを目標とする。とくに近現代の諸問題を中心に考察するが、以下のような諸テーマ、題材を扱う予定である。

倫理とは何か（政治倫理、生命倫理、環境倫理……）、倫理学とは何か（善悪、真偽、美醜）、人間の心の領域（無意識、深層心理、超常現象……）、人格（多重人格、アニムス、アニマ……）、愛（エロス、アガペー、フィリア、生へ向かう愛と死へ向かう愛……）、生命倫理（延命、安楽死、臓器移植、植物人間、脳死……）、現代人の病理（孤独、不安、絶望……）、生命科学と倫理の歴史（クローン、バイオハザード、フランケンシュタイン症候群、キマイラ症候群、ゴーレム、ホムンクルス……）、ポストモダン（脱近代、理性と狂気、人間中心主義の終焉……）。

文学 2単位

明治以後の近代文学が、西欧文学の影響の下でどのように変容していったかを、例えば、「坪内逍遙・二葉亭四迷・北村透谷・正岡子規・夏目漱石・森鷗外・島村抱月・小山内薫等」の作家・演出家の作品を通して考察したい。更に、有名な「詩歌」の作品を暗唱するくらいに記憶させながら、日本人の心情・感性のすばらしさを、教養として身につけることを指導目的とする。

国際文化史 2単位

先進資本主義が東南アジアに進出して、現代化を求めている状況のなかで、開発途上国のもつ価値観や伝統的文化を十分に理解し、正しく把握することが必要となっている。題材としてとりあげたフィリピンは日本企業の進出もあり、我々の社会とも密接に関係している。本講義では、フィリピンの文化やその歴史を中心に理解を深め、私たちのアジア観を検証するとともに、豊かさの指標を見直す作業を行いたい。NGO 活動のなかで培われている開発教育の学習方法を用いながら、対等のパートナーシップを創出するためには何が必要なのかを追求していく。

日本国憲法 2単位

日本国憲法の基本理念（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）を理解し、私たちの生活の中で身近に感じられるように体得し、健全な人権感覚と平和主義を養うことを目的とする。

憲法の条文を理解するだけでなく、憲法の問題点について実際の裁判の判決や社会で問題となっているテーマを用いて理解を深めるように工夫する。判例を読むにあたり、裁判の仕組み等も詳しく解説する。授業時間の前半は憲法の条文の理解などの基礎に使い、後半は判例などの解釈論を紹介する。

社会学 2単位

私たちの社会は、人と人との関係で成り立っている。「人」には男性と女性とがあり、その性差が、社会関係の仕組みや内容に影響を与える。人間は生まれた瞬間から「女らしく」「男らしく」なるように育てられる。このように社会的・文化的につくられた性別が、ジェンダー（gender）である。

社会学の扱う問題にはさまざまなものがあるが、ジェンダーの社会学は、従来の社会学の一領域といった性格のものではなく、むしろ、そこに欠落していた視点であるといえる。また、ジェンダー問題は、最近の国際政治にみる地殻変動や世界経済システムとの関連から浮かび上がって

きたいいくつかのグローバル・イシューとして重要なテーマでもある。

本講義では、テキストとともに新聞記事等の時事的話題を取り入れつつ、「ジェンダー」を身近な問題として考えていきたい。

経 済 学 2単位

日常生活で目にするさまざまな価格に関する経済学的思考を修得する。なお、我々の生活への応用可能性を探ることに重点をおく。具体的には消費者、企業、個別製品の市場といった経済主体の経済活動に焦点をあてながら、経済学の問題意識、それを解明するための既存理論への理解、現実経済問題への応用、理論の制約などに関する知識を学ぶ。このような学習を通じて学生には次のような学習成果が期待される。将来専門職業人として社会生活を営むために必要とする社会経済現象を理解することができる。たとえば、豊作貧乏現象の背景要因、価格規制の効果、価格差別、国民所得と経済成長、そしてインフレと失業などを理解することで、将来社会生活への応用に資する教養を磨く。

教 育 学 2単位

1. ステレオタイプにとらわれずに現在の日本の「教育問題」を的確に捉えることを学ぶ。
2. 教育の本質について考える。
3. 自由、権力、個性など教育にかかわりの深い概念をとらえ返す。
4. 人間および社会への見方をとらえ返す。
5. 以上の作業を通じて、ものを見たり考えたりする方法を身につける。

心 理 学 2単位

「心とは何か？その働きは？」このような問いに対して、本講義ではまず、心理学の主要領域を概観していくことによって、心理学が今日まで何をどのような方法を用い明らかにしてきたのかを明確にしていくことからはじめたい。そして、心理学研究の意味を紹介していくことによって、心理学とはどんな学問かを理解し、受講生が各自の興味関心に基つき、自発的に学び、この問いに対する自らの答を追求していくことを目標とする。さらには、そこで学んだ知識や概念、理論を用いて「私とは何か、人間とは何か」について考察していく。

統 計 学 2単位

私達の身近に存在する現象やデータを分析したり、そのなかに存在する法則性を把握するためには、単に直観的判断に頼るのでなく、科学的な処理が必要である。

統計学は、そのような大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的な分析法の一つである。本講座では、身近なデータを題材に統計学の方法を身につけることを目的に講義と演習を行う。

環 境 保 全 学 2単位

地球環境を構成する要素、「大気」・「水」・「土壌」・「生物」について、それぞれの構成要素で問題となっている点およびその問題点に人間がどのように関与しているかについて明らかにする。さらに問題点の改善への試みについて、現在行われている活動や取り決めなどを紹介する。また、環境悪化の進行防止に各個人の心がけ・協力が大切かつ必須であることを話し、地球環境における人間の在り方、責任ある行動と生活について各個人の自覚を促す。

基 礎 数 学 2単位

小学校に入学以来、10年から12年にわたって、算数・数学について学習してきた。

しかし、ともすればこれまでの学習は、計算方法や解法パターンの習得に主眼がおかれ、量概念・関数概念等の基本的な数学概念についての理解を十分に促してきたとは言い難い。小数や分数の計算が正しくできる人でも、「小数とは何だろう」「分数とは何だろう」「分数の割り算はなぜ分母分子をいれかえて掛けるのだろうか」、このような基本的な質問に正しく答える自信のない人が多いのではないだろうか。そこで本講義では、記数法、単位、小数と分数に関する項目を中心に講義と演習を行うことによって、正しい量概念の理解に基づいた、栄養計算などのさま

ざまな計算ができるようになることを目指す。

物 理 学 2単位

今日の社会はハイテクノロジーに支えられており、我々の身の回りにもハイテク機器が溢れている。したがって生活のいろいろな場面で、それらの技術的背景に関係する物理学的な知識が必要となってくる。

本講義では、物理学の全分野を網羅的に講義するのではなく、いくつかの重要なテーマを選び、我々の身のまわりの現象を例にとって、可能なかぎり数式を用いなくて、物理の基本的な概念を解説する。また、高校で物理を学習しなかった人や、全く興味のなかった人達にも充分理解し、興味を持てるように平易に解説する。

化 学 2単位

私たちの身の回りにあるものはすべて化学物質である。これらを単に「物」としてとらえるのではなく、化学物質として認識し、より深い理解ができるよう、身近な日常現象と結びつけて親しみやすく述べる。

物質や現象を化学的にとらえるにはミクロな視点から眺める力が必要で、眺める力とそれを表現する方法を学び、生活に必要な物質を正しく扱う「化学の目」が身につくように述べる。

1. 化学の基礎的概念 元素 原子 分子 イオン 単体と混合物
2. 物質の成り立ち 無機物 有機物
3. 物質の存在の仕方
4. 化学変化の種類とおこりかた
5. 生活における化学（洗浄 高分子など）

生 物 学 2単位

「生命活動の維持」および「生命の連続性」ができることが「生物」の条件である。この講義でははじめに生物の基本単位である「細胞」について触れた後、「生命活動の維持」として「代謝」・「ホメオスタシス」・「免疫」に、「生命の連続性」として「細胞分裂」・「発生」・「遺伝」について講義する。講義にあたっては、基礎を学びながら、「アポトーシス」や「老化」など様々な生物学・医学における最新の話題についてもできる限り紹介する。

生 理 学 2単位

この講義では人体とくに新生児・小児の構造と機能を、成人との対比をもちいて講義を行う。細胞、組織・発生、骨格系、筋系、神経系、呼吸系、循環器・血液系、消化器系等の諸器官の形態及び正常生理機能に対する認識を小児病態生理と対応させて理解を深める。

情 報 処 理 基 礎 2単位

情報化社会といわれる現代では、パーソナルコンピュータをはじめとする情報処理機器が家庭からオフィス等、今やどの場所でも見受けられる。これらの情報処理機器を家庭あるいは仕事に活用するためには、情報処理および機器に関する基本的な知識と操作技術が必要である。本講座では、パーソナルコンピュータの操作・利用法に慣れることを目的として、情報処理あるいは機器に関する基本的な知識と操作技術・パーソナルコンピュータの利用技術の中で特に実用性・応用性が高い文書処理及び表計算の代表的なソフト Word 及び Excel の基本的な知識と操作技術・インターネットの利用（Web ページの検索、添付ファイル付きの電子メールの送受信）を学習する。

情 報 処 理 演 習 1単位

パーソナルコンピュータの利用技術の中で、特に文書処理及び表計算はその実用性・応用性が高いことから、社会人として必須といっても過言ではない。そこで本講座では、代表的な文書処理ソフト Word 及び表計算ソフト Excel を用いてそれらの基本操作ができるようにする。情報処理基礎で学んだ知識と操作技術を基にし、Word では、ページレイアウトの設定、文字の入

力・変換、文書の作成・編集、見映えをよくする各種設定、イラスト・デザイン文字の挿入、図形・表の作成、印刷等が、Excel では、項目・数値の入力、表計算、罫線、見映えをよくする各種設定、並べ替え、グラフ作成、データの並べ替え、特定文字列の検索・置換、条件に合ったデータの表示、集計、印刷等を、更に Excel 表の Word 文中への貼り付けができるようにする。

文書処理演習 (A) 1 単位

パーソナルコンピュータの利用技術の中で、特にワードプロセッサはその実用性・応用性が高いことから、社会人として必須といっても過言ではない。そこで本講座では、代表的な文書処理ソフト Word を用いてその基本操作ができるようにする。

情報処理基礎及び情報処理演習で学んだ知識と操作技術を基にし、ページレイアウトの設定、文字の入力・変換、文書の作成・編集、見映えをよくする各種設定、イラスト・デザイン文字の挿入、図形・表の作成、印刷等をできるようにする。

特に、例文として代表的なビジネス文書及び保育・教育の現場においてよく使用される園便り、各種案内状を用いる。

文書処理演習 (B) 1 単位

情報処理基礎、情報処理演習及び文書処理演習 (A) で学んだ知識と操作技術を基にし、ページレイアウトの設定、文字の入力・変換、文書の作成・編集、見映えをよくする各種設定、イラスト・デザイン文字の挿入、図形・表の作成、印刷等をできるようにする。

特に、例文として代表的なビジネス文書及び保育・教育の現場においてよく使用される園便り、各種案内状を用いる他、Excel 表で作成した住所録を用いて宛名のラベル印刷等ができるようにする。

キャリアガイダンス 2 単位

みずからの職業観、勤労観を培い、社会人として必要な資質、能力を形成していくことができるよう、社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力）やビジネスマナー、コミュニケーション能力など現代社会において必要不可欠な能力を獲得することを目的とする。

授業は目的を達成するため三部の構成とする。一部は一般における諸問題に対して、疑問を持ち考え抜く力を養う。二部はそれらの問題を解決するために、多様な人と目標に向けて協働（コラボレーション）する力を養う。三部は目標を達成するために、一歩前に踏み出し失敗しても粘り強く取り組むやり抜く力を培う。

英語 (A) 1 単位

国際化が急速に進んでいる今日、英語で情報を入手し、理解できる力を身につけることが不可欠である。読むことを基盤として英語の総合力を向上させることを目標とする。そのために語彙、基本的な文法、構文把握を強化する。また、グループ活動を通して、英語で意思疎通を行う力を養う。さらに、異文化に親しみ、理解を深める。

子供たちの小学校での英語活動に備えて、保育の現場で英語を取り入れた活動を指導できるようになるための能力を養い、アイデアを身につける。

英語 (B) 1 単位

国際化が急速に進んでいる今日、英語で情報を入手し、理解できる力を身につけることが不可欠である。英語 (A) に引き続いて、読むことを基盤として英語の総合力を向上させることを目標とする。そのために語彙、基本的な文法、構文把握を強化する。また、グループ活動を通して、英語で意思疎通を行う力を養う。さらに、異文化に親しみ、理解を深める。

子供たちの小学校での英語活動に備えて、保育の現場で英語を取り入れた活動を指導できるようになるための能力を養い、アイデアを身につける。

中国語 (A) 1 単位

中国語の発音のコツを把握し、日本人にとって間違いやすい発音もできるようにする。同時に、楽しい会話の中で基礎的な文法や表現を学習し、中国旅行の時などに役立つような、また、中国人と簡単な会話ができるような実用的な中国語能力を養う。

ビデオ・歌なども取り入れ、言葉の修得だけでなく、中国の文化・習慣などにも触れていく。
評価方法 定期試験、授業態度による総合評価

中国語 (B) 1 単位

発音と文法の復習と同時に、新しい文法と表現を学習し、文章の読解力を養う。また、言葉や文章の翻訳を練習することにより、聴・説・読・写・訳の各方面における中国語の実力を養う。引き続き、ビデオ・新聞記事などを補助教材として取り入れ、楽しい雰囲気の中で中国語を修得できるようにする。

評価方法 定期試験、授業態度による総合評価

フランス語 (A) 1 単位

フランス語の基本文法を学習する。ことばの4つの側面、すなわち、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」をつねに念頭に置いて、あらたな言語の学習を試みる。方法としては初級フランス語文法教科書を用いて基本文法、基本表現、日常会話表現を解説していく。同時に、利用するには固有の知識が必要となる仏和辞書を自由に使いこなすことができる能力を、毎回の問題演習で習得していく。

名詞の性／数、不定冠詞、定冠詞、er 動詞、否定形、疑問形、形容詞の一致、位置、女性形、avoir, etre 動詞、部分冠詞、指示形容詞、ir 動詞、所有形容詞、否定疑問文、aller, venir 動詞、命令法、縮約形、疑問形容詞、関係代名詞、人称代名詞、代名動詞、疑問代名詞、複合過去形、中性代名詞、受動態、未来形、比較級、最上級、半過去形、大過去形、現在分詞、ジェロンディフ

フランス語 (B) 1 単位

フランス語の基本文法を学習する。ことばの4つの側面、すなわち、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」をつねに念頭に置いて、あらたな言語の学習を試みる。方法としては初級フランス語文法教科書を用いて基本文法、基本表現、日常会話表現を解説していく。同時に、利用するには固有の知識が必要となる仏和辞書を自由に使いこなすことができる能力を、毎回の問題演習で習得していく。

名詞の性／数、不定冠詞、定冠詞、er 動詞、否定形、疑問形、形容詞の一致、位置、女性形、avoir, etre 動詞、部分冠詞、指示形容詞、ir 動詞、所有形容詞、否定疑問文、aller, venir 動詞、命令法、縮約形、疑問形容詞、関係代名詞

体育実技 1 単位

科学技術の進歩にともなう社会生活の変化の中での運動の必要性、及び人生 80 年時代を迎えて、生きがいや楽しさ、喜びを、スポーツに求めるようになってきている今日の重要性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむ態度や、能力を身につける。

1. マナーを覚え、人を大切にする心、物を大切にする心を養う。
2. 楽しくゲームができるよう、ルールを理解し、基本的な技術、体力の向上をはかる。
3. 個人種目、団体種目を行なうことにより、積極性、協調性を養う。
(テニス、バドミントン、バスケットボール)

体育理論 1 単位

運動は、からだを良好に伸ばすために欠くことのできないものである。適度な運動を行なうことによって発育発達をうながし、個人のもつ人間の活動性を促進するものである。

運動の生理では、運動によるからだの生理的機能の変化を把握し、生命維持のためにはたらくしくみを理解するものである。そして、日常の身体活動を通して、生理学的立場から理解を深め、

自らの健康を高めることの出来る態度や能力を養い、健康の意義や、健康の重要性を理解させる。

1. 運動と筋収縮エネルギー代謝との関係
2. 随意運動と不随意運動について
3. 酸素負債について
4. 疲労のおこるしくみと対策について

基礎音楽 1単位

幼児教育に携わる教員に求められる資質能力としての音楽的基礎能力の育成を目標とする。

「読譜力」を身に付けるために、楽典とソルフェージュについて初歩から指導する。

富士通パーソナルコンピュータ FMV-6400CL3c 及び音楽ソフトウェア「Overture2. 1. 1 日本語版」を使用して、楽曲の記譜法を、学習する。

さらに応用、発展的な音楽能力の育成を目標とする。講義と演習を含み、主な内容は次の通りである。

- ① コードの種類やしくみ、 使い方について
- ② 伴奏づけ (片手、両手)
- ③ 簡単なメロディーの変奏、 移調
- ④ こどもの歌の作編曲

ボランティア活動 (A) 1単位

ボランティア活動 (B) 1単位

ボランティア活動が「よりよい社会造りの必要性に鑑みて、自由意志で、その実現のために自己の能力を無償で提供する活動」であることを前提として、学生が地域社会に貢献する活動としてボランティア活動に積極的に取り組み、ボランティアとは何かをつかむことを目標とする。

学生が独自に日々の学習スケジュールの中で両立させることのできる地域に貢献するボランティア活動を自主的にみつけ、活動の内容、目的、時間など詳細な事前計画を立案する。(担当教員との協議を要する。)一週間に最低 1.5 時間以上のボランティア活動を実践する。セメスター15回の活動を最低条件とし、 $15 \times 1.5 = 22.5$ 時間を最低の必要時間とする。自己が実践したボランティア活動の定義及び評価を事後報告書にまとめる。活動中は担当教員とコミュニケーションを密にする。事前計画及び事後報告書で評価する。

クラブ活動 (A) 1単位

クラブ活動 (B) 1単位

自主的な活動は学生の全人的な発達を助長するものであり、その一つであるクラブ活動に積極的に取り組むことにより、協調性、社会性及び自己管理能力等安定した人間性を身につけさせる。

本学学友会クラブにおいて学生が独自に日々の学習スケジュールの中で両立させることのできるクラブ活動を自主的にみつけ、活動の内容、目的、時間など詳細な事前計画を立案する。(担当教員と協議を要する)一週間に最低 1.5 時間以上のクラブ活動を実践する。セメスター15回の活動を最低条件とし、 $15 \times 1.5 = 22.5$ 時間を最低の必要時間とする。自己の活動内容及び評価を事後報告書にまとめる。活動中は担当教員とコミュニケーションを密にする。

事前計画及び事後報告書で評価する。

教養演習 2単位

多様な能力と適性を持ち、入学前の履修歴も様々な学生に対して、本学が専門教育の学習需要に求められる役割を果たし社会の期待に適切にこたえていくために、学生の能力・適性に応じた主体的な基礎学力及び学習意欲を積極的に養成することを目標とする。

履修登録した学生に対して所属する学科の全専任教員が担当し、小人数のゼミナール形式で1週 90 分の授業を行う。授業は演習授業とし、学科の教育理念に基づく学習計画、レポートの書き方、講義の受け方、学生生活、社会生活など大学生としての自覚を促進する内容をテーマとする。学習成果を評価する。

専門教育科目

教育心理学 2単位

この授業で用いる教科書は、従来の乳幼児心理学と児童心理学を統合して、教育心理学に一本化したという点でも特徴があり、教養の書であるとともに実用の書である、という特色を持っている。

授業では、テキストの特色を生かし、プロフェッショナルな保育専門家として必須の教育心理学の基礎学習を目標にして、乳・幼児の発達、基本的な人格形成と適応、しつけと家庭教育に関する心理学的問題について、基本的な知見や方法を概観する。

発達心理学Ⅰ 2単位

人間は、誕生してから死ぬまでの間、身体的な成長とともに精神的な発達を示す。

では、精神的な発達とはどのようなことを指すのであろうか？いったい何が発達するのだろうか？また、それはどのような仕組みによって生じるのであろうか？

本講ではこのような問題を、人と人との関わりを中心に考察していく。幼児教育に携わるものとしてより深く子どもを理解するための視点の獲得を目指し、子どもの日常生活におけるさまざまな活動の意味について学生とともに論議していく。

発達心理学Ⅱ 2単位

発達心理学Ⅱでは、青年期から老年期にいたるライフサイクルの心理学的知見を取り上げる。この授業で用いるテキストは、生涯発達心理学の立場からその副題に“人生の四季を考える”内容になっており、2年生での実習のためにも、Ⅱに先行して開講される1年後期の発達心理学Ⅲを受講しておく方が好都合である。

授業では、テキストの趣旨に副い、発達の起点を胎生期に置き、近年、社会問題化している少子化や胎児の心理と権利の問題から、乳幼児・児童の発達心理を見直し、かつ人格の形成と環境の影響と発達障害等についても、プロフェッショナルな保育者として必要な知見と考え方に講義の重点を置く。

発達心理学Ⅲ 2単位

発達心理学Ⅲは、発達心理学Ⅱに先行する領域、即ち、乳・幼児期から児童期に至る、発達心理学の知見を学ぶことに重点を置く。近年著しく研究が進んだ、胎生期の発達に起点を求め、乳幼児期の保育に必要な基礎的な理論や知見、具体的な方法等を学習する。

- ① 胎生期・乳幼児期の身体と運動の発達
- ② 知覚の発達
- ③ 認知の発達
- ④ 道徳性の発達
- ⑤ 母性と父性
- ⑥ 社会性の発達
- ⑦ 情緒と欲求
- ⑧ 幼児期の家庭教育・人格の発達と環境

臨床心理学(A) 1単位

保育・教育者にとって関心の高い発達障害を中心に、その理解と援助法について、基本的なあり方を理解する。すなわち、以下の諸点に関する基礎的知識を習得することである。

- ①発達障害の類型とそれぞれの特徴を理解する。
- ②発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。
- ③精神障害の基礎的知識を理解する。
- ④自主的に学ぶ姿勢を身につける。

臨床心理学(B) 1単位

前記、臨床心理学の課題の解決を目指し、次の要領により理解を進める。

小児心身症、登校拒否、家庭内暴力、思春期やせ症、学生無力症、中年うつ病など、子供から

大人にいたる諸種の問題行動や現象を、事例を通して理解し、有効な指導法や心理療法を考察する。

社会心理学 2単位

人間は社会的存在といわれるが、それはどのようなことを意味し、また、いつからそうなるのであろうか。本講ではこのような問題を、社会・文化的環境との interaction による個人の社会化に焦点を当て考察していく。

特に本講では幼児教育学科の開講科目であることを考慮し、乳幼児期を中心とし青年期までの他者との interaction（コミュニケーション行動、対人認知、対人関係）とその背景としての文化との関わりに関する最近の研究成果を基に展開していく。そして、それらを材料とし人と関わることの意味について学生とともに考察していく。

教師論 2単位

「教育職員免許法施行規則」において定められた科目「教職の意義に関する科目」に当たる。規則において定められた教職の意義および教員の役割、教員の職務内容などを扱う。

本講義によって以下のことが達成されるであろう。

- ・教師の歴史の理解、およびそれに基づく教師の役割理解
- ・教師の資格や身分などを定める法制度の理解
- ・保育者の役割、および保育者のおかれた現状の理解

教育原理 2単位

「教育職員免許法施行規則」において定められた科目「教職の基礎理論に関する科目」に当たり、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」の一部を取り扱う。

本講義によって以下のことが達成されるであろう。

- ・教育に関する「語り」に基づく教育の意味理解
- ・欧米における教育思想の歴史、およびそれに基づく現代教育の理解
- ・現代教育に関するトピックを扱うなかでの、現代教育問題の追求

教育制度論 2単位

「教育職員免許法施行規則」において定められた科目「教職の基礎理論に関する科目」に当たり、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」の一部を取り扱う。

本講義によって以下のことが達成されるであろう。

- ・教育に関する法令の理解
- ・教育行財政の仕組みの理解
- ・保育制度についての理解と課題の設定

保育相談の基礎 2単位

子どもを取り巻く環境の急速な変化に伴い、諸処の新たな問題がクローズアップされてきている。このような状況の中、保育者が子育て支援を期待されることが増え、かつ多様化している。

そこで本講では、子どもを取り巻く生活環境の意味と変化を理解し、保育者として保育相談をする上で必要な基本的知識やカウンセリング技能を身につけることを目的とする。

事前・事後指導 1単位

主として教育実習幼稚園の選定作業、教育実習についての心構えなどを扱う。

昨今の少子化により教育実習の受け入れ人数も減少しており、受講を希望する学生には教育実習参加への強い意志を求める。

幼稚園教育実習 4単位

幼稚園にて約1ヶ月の教育実習を行うが、以下の段階に分かれる。また必ずしも希望の幼稚園で教育実習が可能とは限らない。

1. 観察実習；子どもの実際の活動を観察することで子どもの実態を把握する。
2. 参加実習；指導教諭とともに保育活動を行い、その活動の実際を知る。
3. 責任実習；自分で指導案を作成し、1人で保育活動を行う最終段階。

なお実習は、教育実習事前・事後指導を履修し、単位認定を受けなければ参加できない。

教職実践演習（幼稚園） 2単位

これまで授業や教育実習で学んだことを振り返り、教員として求められる4つの事項①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項について、グループ討議・模擬実践・事例研究などを通して総合的に学ぶ。また、幼児教育現場との連携を図り、幼稚園教諭による講演・ディスカッションを実施する。

社会福祉 2単位

1. 社会福祉とは何か

国家扶助の適用を受けている者、身体障害者、児童、その他援護育成を要するものが、自立して能力を発揮できるよう、必要な生活指導、更生指導、その他の援護育成を行うことをいう。

2. 社会福祉の歴史

3. 社会福祉の組織体系

1) 社会福祉の法制行政 2) 社会福祉施設 3) 社会福祉の従事者

4. 社会福祉の分野

生活保護 児童福祉 婦人母子福祉 身体障害者福祉 知的障害者福祉 老人福祉 他

5. 社会福祉の方法技術

相談援助 1単位

保育所における保護者や地域への支援の必要性が明確化し、保育士による相談援助が求められるようになってきた。そこで専門職である保育士が課題を持つ人の相談に個別に対応しながら、その人が自分自身の力に気づき、自らの課題解決に取り組むことができるように支援する取り組みである。相談援助では、困りごとがある個人や家族に対応することにより、その自己実現を支援する方法を学んでいき、支援することができるようになる。

保育相談支援 1単位

子どもの保育の専門性を有する保育士が、保育に関する専門的知識・技術を背景としながら保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して、保護者の気持ちを受け止めつつ、安定した親子関係や養育力の向上をめざして行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示その他の援助業務の総体について学んでいく。

児童家庭福祉 2単位

少子高齢社会と言われている今日、高齢化の進展は出生率の低下と大きくかかわりがある。したがって「21世紀は老人の世紀であるとともに、児童の世紀」でもある。

この視点から、日本の将来をになう児童の育成を、児童福祉から児童家庭福祉へと発展させて、児童と家族全員のウェルビーイングを達成することを目標とする。児童福祉は、子育ての福祉（ウェルビーイング）なのである。児童福祉は子どもに最善の利益を与えるために、すぐれて児童を権利の主体としてとらえ、児童、親の自立を支援する営為ということができる。実際には児童福

社の理念、歴史、実態、そして国際的な児童福祉および児童福祉の諸問題について講ずる。

保 育 者 論 2 単位

保育に関する基礎概念を教示したうえで、保育者に関わる以下の諸点を理解させるための講義を行う。

1. 保育者の役割と倫理について理解する。
2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。
3. 保育士の専門性について考察し、理解する。
4. 保育者の協働について理解する。
5. 保育者の専門職的成長について理解する。

保 育 原 理 I 2 単位

保育者論における講義内容をふまえて、保育実践に求められる以下の諸点に関する知識技能の定着を図る。

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
3. 保育の内容と方法の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について考察する。

保 育 原 理 II 2 単位

保育における指導計画案の重要性と実際を認識させ、指導計画案作成技能を培うことが本講の目的である。

- ・指導計画案作成時の基本的知識
- ・保育所における指導計画案の作成
- ・幼稚園における指導計画案の作成

乳 児 保 育 2 単位

乳児保育の理論的・実践的問題について、将来幼児教育に携わる者としての立場から考察するための基礎的な知識を身につけることを目的とし、以下の目標のもとに考えていく。

1. 「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。
2. 保育所における乳児保育の意義を理解する。
3. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。
4. 乳児保育を家庭や地域社会との連携という文脈において考える。
5. 乳児保育における指導計画と記録のあり方を考える。
6. 多様な保育ニーズに対応する専門職としてこれからの乳児保育を考える。
7. 「乳児保育」を実践的に考えるための方法を学ぶ。

社 会 的 養 護 2 単位

少子化、核家族化、高齢化が急速に進む中、それらへの福祉対応がますます求められる時代となっている。ノーマライゼーション理念の確立、生活の質（QOL）の追求、福祉ニーズの多様化と高度化、マンパワーの養成など、緊急の対応が必要なものばかりである。本講では、子どもの人権、児童養護の理念・原則、社会的養護の現状と課題などを取り上げ、21世紀の時代に即した知識と児童養護の実践技術を学んでいく。

障 害 児 保 育 2 単位

障害や遅れのある子どもに対してどのようにかかわればよいのかは、非常に大きな問題である。

保育においては、その子なりの興味や関心、楽しみや目的を大切にして保育を行い、一人ひとりの育ちを援助していくことが重要となってくる。本講では、障害や遅れのある子どもを保育する場合の留意点、障害の理解、保護者や専門機関との連携について理解することを目的とする。特に、保育場面における障害児との具体的なかかわり方や保護者への支援の方法について理解を深めることを目指す。

社会的養護内容 1単位

「子どもの権利条約」の批准が、そのまま自動的に子どもの現状や施策の改善につながるものではない。現在注目されている社会福祉改革は、子どもの権利を保障する上で必ずしも楽観できる方向に進んでいるとはいえないのである。福祉の大きな転換期ともいえる現在、社会福祉や児童福祉の現実をどのように読み取るか、転換の方向をどのように描いていくのかが問われているといえる。「子どもの権利条約」の意義や児童福祉・保育の現実や制度を読み解くだけでなく、これをどのように実践活動の中に生かしていくかについて学んでいく。

保育実践演習 2単位

必修科目及び選択必修科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に保育実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイングなどの方法によって掘り下げ、問題解決の手法を学ぶ。

保育実習Ⅰ 4単位

保育実習Ⅰは、保育所における実習（10日間、2年次前期）とそれ以外の児童福祉施設等における実習2単位（10日間、2年次前期）からなる。保育実習Ⅰの目標は以下の通りである。

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に学ぶ。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

保育実習指導Ⅰ 2単位

1年次後期及び2年次前期に保育実習Ⅰの事前指導及び事後指導を行う。保育実習指導Ⅰの目的は以下の通りである。

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

保育実習Ⅱ 2単位

保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰの後に行う保育所における実習（10日間、2年次前期）からなり、その目標は以下の通りである。

1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。
3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。

5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。

保育実習指導Ⅱ 1単位

保育実習指導Ⅱでは、2年前期に保育実習Ⅱの事前指導及び事後指導を行う。保育実習指導Ⅱの目標は以下の通りである。

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

子どもの保健Ⅰ（A） 2単位

子どもの保健は、子どもの健康を守り、それを増進させるための保健活動である。それによって、子どもを身体的、精神的、かつ社会的に健康な状態の成人に育てるため、また、疾病の罹患を回避するための保健活動である。小児の生理学及び小児科学の知識をもとに保育実務に必要な項目と関連づけて体系立てが出来るようにする。

小児の理解として小児の発育・発達、年齢的特性等小児の生理機能の特徴を知る。小児の疾病予防、健康増進のために、栄養及び免疫につき学ぶ。

子どもの保健Ⅰ（B） 2単位

子どもの保健は、子どもの健康を守り、それを増進させるための保健活動である。それによって、子どもを身体的、精神的、かつ社会的に健康な状態の成人に育てるため、また、疾病の罹患を回避するための保健活動である。小児の生理学及び小児科学の知識をもとに保育実務について体系立てをする。

感染症・予防接種・救急措置・慢性疾患における投薬・乳幼児突然死症候群（SIDS）の予防・アトピー性皮膚炎対策・保育の環境保健・事故防止・安全指導・虐待などへの対応・乳児保育についての配慮・家庭と地域との連携につき学ぶ。

子どもの保健Ⅱ 1単位

子どもの保健の全般的な知識を基礎に、育児の色々な場面で実際に即して具体的な行為として実行出来るように実習や訓練を行う。

主な内容は、小児の健康状態の観察、乳児の扱い方、基本的な看護の技術、異常症状と手当の仕方、応急手当、など。

家庭支援論 2単位

現代において、家族のあり方を含む家族自体が大きく揺らいでいる。近年の青少年犯罪、児童虐待、老人介護、母親の育児ノイローゼ等、数多くの社会問題が発生している。これらの問題は特異なものではなく、誰もが経験するかもしれない共通の社会全体の問題である。このような社会状況の中、家族全体を支援する必要性が重要視されている。

本講では、家族全体を支える家族福祉の視点とはどのようなものであるか、そして実践的な家族援助の方法とはどのようなものであるかについて理解することを目指す。

子どもの食と栄養 2単位

「食」は「人間が生きていくこと」そのものであり、「子供の健やかな心と身体を育むもの」である。溢れる食べ物や食情報に振り回され、小児肥満、糖尿病、アレルギーなどの疾患が増加

している現状の中で、乳幼児に日本人としての食生活の基礎をきちんと築いてあげることが、保育にかかわるすべての大人の責任である。そこで本講義では、保育士を目指す者として、現代における小児のための実践的な栄養管理の基礎を学ぶこととする。また、幼児や保護者に対し、食教育の実践ができるよう演習も取り入れる。

保育内容総論 1単位

保育内容の理論的・実践的問題について、将来保育に携わる者としての立場から考察するための基礎的な知識を身につけることを目的とし、以下の目標のもとに考えていく。

1. 保育内容の基本的構造について理解する。
2. 子どもの発達と保育内容との関わりについて理解する。
3. 子どもの生活と保育内容との関わりについて理解する。
4. 保育計画と保育内容との関わりについて理解する。
5. 保育内容の歴史的変遷について理解する。
6. 現代保育における保育内容のあり方について考える。

教育課程総論 2単位

本講義では、教育課程編成の理論と、具体的な実践方法について理解することが目的である。具体的には次のような理論について概説する。

- 幼児期にふさわしい生活について
- 幼児一人ひとりの心身の発達が助長されるための教育課程とは何か
- 教育課程の作成、展開、評価、改善の方法

健康（保育内容） 2単位

精神機能を営んでいる脳を中心に、その機能を科学的に理解し、人間の欲求と欲求不満、さらに欲求を満たそうとする行動および精神と身体との相関について理解を深め、自ら進んで精神の健康を高め、安全でかつ健全な社会生活のできる能力や態度を養う。

1. 欲求不満と障壁について
2. 適応障害について
3. ストレスについて
4. スランプとプラトーについて
5. 健康な精神生活設計について

人間関係（保育内容） 2単位

乳児・幼児というある時は愛らしく、ある時は憎らしくさえもある不可思議な存在について哲学、歴史学、民俗学、人類学、精神医学など人間諸科学の立場から多面的に、また根源的に考察する。また大人という存在、例えば親あるいは保育者として戸惑いながら乳児・幼児とかかわっていく我々についても一緒に考察する。

幼稚園教育要領および保育所保育指針についても関連箇所に一通り目を通す。

環境（保育内容） 2単位

保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、このねらいを達成するための領域「環境」内容を、実際に五感を通して理解し、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育・教育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察することを目標とする。

言葉（保育内容） 2単位

言葉の習得は、乳幼児期における最も重要な発達課題である。保育者は、乳幼児の言葉の発達における特徴や諸問題などを理解し、指導の力量を身に付けなければならない。本授業はそのような力を育成することを目指し、次の三点を主な目標とする。

- ①領域「言葉」の内容、言葉の役割、乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を学ぶ。また、幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを学ぶ。
- ②絵本の読み聞かせ・紙芝居の実習を行い、その技能を身に付ける。
- ③話し方の実習を行い、保育者としてふさわしい話し方を身に付ける。

表現Ⅰ（A）（保育内容） 1単位

外界からの様々な刺激（情報）を受け止め、無意識に反応すること自体が表現の始まりであり、それらを積極的に環境との関わりの中で深めていくことは、自己伝達能力や他者受容の態度、社会性の発達を奨励することにも関連する。そこで本講では、特に「身体的表現」を中心に、幼児の発育発達における特性を反映させた理論と実技を習得し、「表現－理解」関係の構造に対する認識を深める。また指導者自身が専門的スキルや豊かな情感をそなえることは必須条件であるため、平素からの身体鍛錬や感性の充実に対する努力を要望する。

（理論）

- 感情に対する心理学的考察
- 音刺激のイメージと動きの表現
- 即興（improvisation）の重要性

（実技）

- 基本運動スキル（Fundamental movement skills）の習得
 - （1）移動運動 （2）操作運動 （3）平衡運動 （4）バリエーション
- 知覚運動スキル（Perceptual motor skills）の習得
 - （1）身体認知 （2）空間認知 （3）平衡性 （4）協応性
- 動きの探求（Movement exploration）
- 作品製作及び発表による「表現 理解」関係の構造に対するアプローチ

表現Ⅰ（B）（保育内容） 1単位

表現Ⅰ（A）において獲得した知識とスキルを基礎として、より実践的、具体的に「身体的表現」の指導理論と実技を学び、現場で十分に活かせるよう模擬指導の実践などを取り入れて展開していく。

（理論）

- 幼児期の発達的特徴と身体表現
- リズム楽器の特性とリズムパターン
- 身体的表現活動の援助と指導法

（実技）

- 身体的表現の基本形式（空間秩序）
 - （1）シンメトリー（2）パラレル（3）コントラスト（4）バランス
- リズム楽器（重荷打楽器）の基本的演奏法と動きの表現
- 現場を想定した模擬指導の実践
 - （1）手遊び（2）足遊び（3）リズム遊び（4）歌詞を伴う音楽と動き（5）手話
- 総合的パフォーマンス（歌・音楽・手話・リズム楽器・ストーリーの総合）

表現Ⅱ（A）（保育内容） 1単位

造形についての基礎知識と技術を、主に実技を通して習得し、幼児教育及び保育における幼児の造形活動の指導・援助の能力の養成を目的とする。したがって、完成作品よりも作業の過程における姿勢や視点を重視し、将来保育者となった時点で資料として役立つことを前提とした記録

の作成を求める。

表現Ⅱ（B）（保育内容） 1単位

造形素材の扱いと発達に応じた造形活動の展開を考え、環境構成を行うことができる視点を身につける。手作り教材の制作を通して素材の選択や処理法を学ぶ。対象となる幼児の受け止め方を認識するとともに導入にも配慮して、造形遊びや手作り教材を用いておこなう指導案を作成するための基礎事項を身につける。

音楽Ⅰ（A） 1単位

ピアノの基礎的技術を習得するために、（A）では特に楽譜を読む練習（読譜力）、指の基礎的練習に重点をおく。教則本はハノン、バイエル、ツェルニー等を使用し、各自のレベルに適した演奏技術の向上に努める。

音楽Ⅰ（B） 1単位

（A）に続き基礎的練習を行い、更に音楽的表現力を習得することを目標に「ブルグミュラー 25の練習曲 ソナチネ」を使用する。又、2年次の実習に備えての童謡の弾き歌いの練習も並行して行い、将来保育者として必要な演奏技術を身につける。

音楽Ⅰ（C） 1単位

（A）（B）で基礎的練習を十分に積んで、更に各々の演奏技術を高めると共に、（C）では「ブルグミュラー 25の練習曲 ソナチネ、ソナタ」を使用し、童謡の弾き歌いの練習も並行して行い、将来保育者として必要な演奏技術を身につける。

音楽Ⅰ（D） 1単位

（A）（B）（C）に続き基礎的練習、音楽的表現力の向上に努め、高度な演奏技術を修得する。又、（D）では就職実技試験における課題曲の練習も行い、将来保育者として必要な演奏技術を身につける。

音楽Ⅱ（A） 1単位

声楽の基礎技能を習得し、幼稚園や保育園での歌唱教材に対応できる資質を養う。
歌唱に必要な基本的な呼吸法・発声法を学び、ソルフェージュの基礎能力を習得する。
教材として、教育芸術社版「声楽教本」にそって行う。

音楽Ⅱ（B） 1単位

音楽Ⅱ（A）で学んだ基礎技能の上に、より高度な歌唱力、音楽表現力を習得してゆく。
教材の「声楽教本」より、さらに難易度の高い課題に取り組み読譜力をつけ、童謡の弾き歌いや芸術歌曲、合唱に取り組む。

体育（A） 1単位

幼児期における身体運動は、心身の発達に大きな影響を及ぼす。運動遊びによって得られた運動能力や運動技術は、生涯にわたって日常生活の中であらゆる動作の基本となるものである。

そこで、幼児教育に携わるものとして、幼児の心身や運動技能の発達の特徴を把握した上で、運動遊びにおける「指導や援助」の方法を学習する。また、指導者として必要な体力や運動技能をも身につける。

- ・ 幼児体操、鬼ごっこ遊び、身近にあるものを使った遊び（新聞紙等）
- ・ レクリエーションゲーム、ニュースポーツ

体 育 (B) 1 単位

(A)に引き続き、ここでは遊具を使った運動遊びを通して、幼児の発達の実態を把握し、援助や補助の仕方を学習する。

- ・遊具の正しい扱い方（使用方法、後片付け）、協力の仕方、協調性を身に付ける。
- ・安全に必要な習慣、態度を身に付ける。
- ・遊具を使った運動遊び
 - ボール遊び フラフープ遊び 縄遊び
 - マット遊び 跳び箱遊び 平均台遊び 鉄棒遊び

図画工作 (図画A) 1 単位

幼児教育学科の学生に対して、美術教育が目的とする、豊かな感性にあふれた人格形成のための造形分野における独創的な発想・表現力を養う。

基礎的な訓練として、観察による表現活動からはじまり、形・量・質・色彩・線など造形表現要素の意味と可能性を理解させる。

また、作品制作を通して課題達成に必要な集中力と持久力を身につけるとともに、成就の喜びを自覚させる。

図画工作 (工作A) 1 単位

- 造形表現の在り方
 - ・領域表現の捉え方
 - ・幼児造形の指導
 - 保育者の立場
 - ・子供理解
 - ・他の自己表現活動との関係
 - ・指導上の留意点
 - 生活の中の幼児造形
 - ・生活に根ざした造形の在り方
 - 制作活動の留意点
 - ・壁面構成の必要性
 - ・季節感の出し方
- ・ 幼児の造形活動の発達
 - ・ 造形表現の理解
 - ・ 保育者の造形感覚と造形思考
 - ・ 園生活の中での実践例
 - ・ 造形指導との関わり
 - ・ 材料・用具の調達

図画工作 (図画B) 1 単位

幼児教育学科の学生に対して、美術教育が目的とする、豊かな感性にあふれた人格形成のための造形分野における独創的な発想・表現力を養う。

基礎的な訓練として、観察による表現活動からはじまり、形・量・質・色彩・線など造形表現要素の意味と可能性を理解させ、更に人間の内面性に迫り個性の発見と確認を目指す。また、作品制作を通して課題達成に必要な集中力と持久力を身につけるとともに、成就の喜びを自覚させる。

図画工作 (工作B) 1 単位

実技演習と保育実践

- 幼児のための木製パズル
 - ・平面構成力
 - ・素材としての木の性質
 - ・彫りの技法
 - ・仕上げ塗装
- ・ 色彩感覚
 - ・ 電動糸鋸盤の使用
 - ・ 木に適した彩色
 - ・ 遊具としての安全性

国語 2単位

文章表現力を向上させることは、将来の社会人として、幼児の言葉の発達に大きな責任を負う将来の保育者として必要不可欠である。

受講生が文章表現力を向上させ、近い将来自信を持って保育に従事できることを願い、本授業は次の三点を主な目標とする。

- ① 文章表現の基礎力を充実させる。
- ② 社会人・保育者として必要なさまざまな文章の表現力を身に付ける。
- ③ 連絡帳・園だよりなど保育の現場で作成する文章の表現力を身に付ける。

児童文学 2単位

児童文学は、これまで家庭、保育所・幼稚園などの場で、幼児の発達に大きな役割を果たしてきた。保育者には、このような児童文学を保育の実践に生かす力が求められる。本授業はそのような力を育成することを目指し、次の三点を主な目標とする。

- ① 近現代児童文学史のあらましを学ぶ。
- ② 近現代児童文学を代表する八人の作家について、それぞれ「人」と「作品」について学ぶ。
(受講生は、作品について感想の文章を作成する。)
- ③ 「絵本の読み聞かせ」の実習を行い、その技能を身に付ける。

生活と科学 2単位

幼児期における日常生活は基本的な生活習慣の確立と遊びが中心で、科学的世界への入り口は小学校以降と考えられている。しかし、子どもたちは白紙の状態では科学的世界に入るわけではなく、日常生活上の活動の中から各教科の学習の基礎となる原理を獲得している。そこで本科目では、近年の発達心理学、認知心理学、人類学等の知見を基に人間の学習能力の特徴に考察を加え、日常生活的世界観と科学的世界観との関係性を理解することを目指す。さらに、小学校の「生活科」を踏まえて、幼児の日常生活上の活動を科学的知識の基礎の獲得として意味づけていく視点の獲得と、そのような活動を促進させる援助の在り方に検討を加えていける力を育成することをねらう。

児童文化 2単位

児童文化に関する基本的問題や用語や実例について知る。抽象概念ではなく具体的なイメージで捉えていくことが大事なので、児童文化の世界がよく表現されている紙芝居・絵本・昔話・映像など様々なメディアも利用して理解する。具体的には以下の通り。

- ① 児童文化とは何か、その起源と展開について知る。
- ② 児童文化の内容の概略について知る。
- ③ 日常生活の中で出会う児童文化の実例、自分たちが子どもの頃に体験した児童文化の例について考察する。
- ④ 保育現場で展開されている児童文化の事例について学ぶ。

卒業予備研究 (A) 1単位

1年次前期に開講される本科目では、1年次後期開始の卒業予備研究 (B) の履修に向けて、保育に関する研究の基礎を培う。

具体的には、①保育所見学や現職保育者の講演などから、保育現場のイメージや保育者像を描くこと、②自らの興味や関心を探り、さらに卒業研究の各領域の具体を知り、後期における履修選択の糧とすること、を目指す。

卒業予備研究 (B) 1単位

卒業研究 (A) 1単位

卒業研究（B） 1単位

幼児教育学科の卒業研究および卒業予備研究は、幼児教育学科のなかでも中核となる科目のなかから、主として専任教員が各自の専門分野に関して、演習形式によって開講する。

卒業予備研究（B）は1年次後期に開講され、2年次前後期の卒業研究（A）（B）によって完成される。その成果は、2年次後期の研究発表会において公表する。